

経済学部 経済学科（取得可能免許種：中学校／社会 高等学校／公民）

経済学部は、経済学を基礎として幅広い見識と豊かな人間性を有し、現代の経済社会の諸問題について自ら発見し、多様な人々と協働して取り組むことのできる人材を育成することを目的としている。教員養成においても、大学の教育の理念および教員養成の目標・計画のもと、経済学を基礎として幅広い見識と豊かな人間性を有し、現代の経済社会の諸問題について自ら発見し、多様な人々と協働して取り組むことのできる人材を育成することのできる教員の養成を目標としている。そのため、経済学部の専門教育では、以下のような特徴をもった教育を計画的に行っている。

- （ア）現代の経済社会において重要な諸課題を有する国際経済、地域経済、観光経済に着目し、学生はこれらのいずれか一つを専門とする３コース制を敷いている。そして、１～２年生に経済学の基礎を修得するために、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学といった経済学の基礎科目を必修とするとともに、国際経済、地域経済、観光経済の入門科目も必修としている。そのうえで２～４年生には学生の選択したコースおよび研究対象に応じて、各コースの授業科目や幅広いアドバンスト科目からなる専門科目を履修する。これにより、経済学を基礎として幅広い見識を有し、現代社会の諸問題を自ら発見することのできる礎を築くとともに、それらの問題の解決に取り組むための経済学の専門性を高めることを目指している。
- （イ）経済学部では、１～４年生の４年間を通じて少人数の演習科目を設けており、指導教員が専門科目の指導にとどまらない学習や生活の指導をしている。１年生は機械的に振り分けられるクラス（基礎ゼミ）であるが、２～４年生の３年間は継続して一つの専門ゼミに所属し、教員の指導を受ける。経済学部ではフィールドワークを積極的に取り入れた実践的な教育を重視しているのが特徴である。２～４年生の専門ゼミで学外でのフィールドワークを行うことを奨励しているのに加え、各コースに実践演習科目を設け、特定のテーマについてゼミ横断的なプロジェクトベースの教育も行っている。また、これらの授業ではグループワークやプレゼンテーション、ディスカッション中心の授業を行い、研究成果をもって共同研究報告会、実践演習報告会、卒業研究報告会に参加する。これらにより、現代の経済社会の諸問題を自ら発見すること、および諸問題に多様な人々と協働して取り組むことができること、また豊かな人間性を育むことができることを目指している。
- （ウ）大学で開講する教職課程の諸科目に加え、経済学部では中学校の社会科、高等学校の公民科の教職に必要な専門的事項に関する科目を幅広く開講している。中学校の社会科免許のために、「社会学、経済学」に関する科目群に加え、「日本史、外国史」、「地理学」、「法律学、政治学」「哲学、倫理学、宗教学」に関する諸科目を、また高等学校の公民科免許のために、「社会学、経済学（国際経済を含む）」に関する科目に加え、「法律学（国際法を含む）、政治学（国際政治を含む）」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」に関する科目群を開講している。さらに各教科の指導法に関する科目として「社会科教育法」を、中学校の地歴分野、公民分野、高等学校の公民分野に対応するように開講している。これらを通じて、教科教育に必要な幅広い見識と豊かな人間性を有し、専門的な知識を修得できることを目指している。